

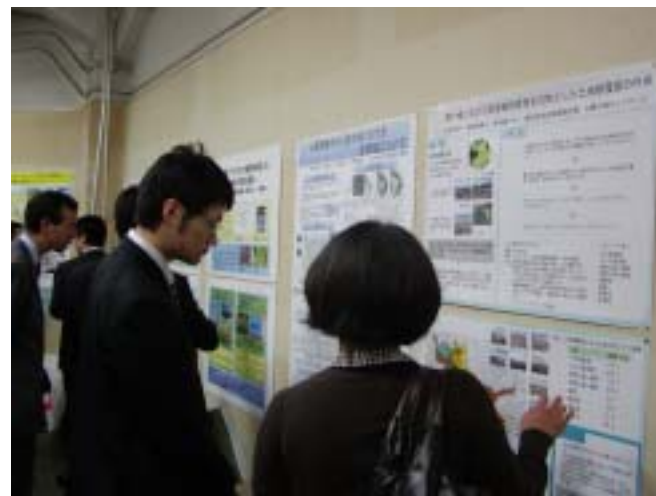
平成20年度 日本造園学会関東支部大会 報告

平成20年10月11日(土), 東京大学農学部

9:30~12:00 事例・研究発表会(口頭発表・ポスター)

展示「造園遺産インベントリーづくり」の取り組み(見学会等)

会員による30件の事例・研究発表と討論が、4会場に分かれて行われました。並行して、関東支部の活動「造園遺産インベントリーづくりの取り組み」のパネルと、東京都公園協会からお借りした「東京の新しい緑の創出」のパネルも展示しました。いずれも活発な意見交換が行われていました。



12:15~12:45 関東支部総会

平成19年度の事業報告と会計報告、平成20年度の事業計画案と予算案について審議し、平成20年度の事業計画案と予算案が承認されました。

さらに、平成20年度にあらたに認定した造園遺産を公表しました。今年度は、新たに団地部門、学校・キャンパス部門、動植物園部門、緑地部門を加え、10件を認定しました。



13:00~15:15 ~10年後の東京の緑を考えよう 第1部~

シンポジウム

「10年後の東京の緑を考えよう 緑の現状とリスク、そして解決のシナリオ」

はじめに、話題提供者として小林明氏(東京都建設局公園緑地部)から「『10年後の東京』に向けた東京都の取り組み」、阿部伸太氏(東京農業大学地域環境科学部)から「どうなる、東京の緑のストックと景観」、植田直樹氏((株)三菱地所設計)から「『10年後の緑』をつくる背景にあるもの」のタイトルで、それぞれ話をいただいた後、コーディネータの小野良平氏(東京大学大学院)によるコメントとまとめがありました。

その後、会場の参加者とファシリテータからなる6グループを編成し、グループごとに、東京オリンピックが誘致された場合、されなかった場合など条件を変えて、将来の東京の緑の「質」をどのように確保していくのかのシナリオを作成す

る、シナリオプランニングという手法で、造園分野が何をなすべきかの討論が行われました。その後、グループごとに討議した結果を発表し、話題提供者とコーディネータからのコメント・総括をいただきました。



15 : 30 ~ 17 : 45 **第4回学生デザインワークショップ**

「サマースタジオ2008/空地のデザイン」発表会

首都圏の造園や建設を学ぶ大学生達が、若手のデザイナーの指導を受けながら、開発に伴い放棄された土地、余った土地の活用を提案するワークショップを7月から行ってきました。その苦勞の成果が、模型と映写で発表されました。



18 : 00 ~ **懇親会**（東京大学農学部生協にて）

10:00~13:00 ~10年後の東京の緑を考えよう 第2部~

参加型イベント「緑のまち健康診断 in 日比谷公園」

参加者が日比谷公園内の複数箇所で気温と風速を測定し、測定結果をマッピングした図面を作成しました。その結果にもとづいて、入江彰昭氏(東京農業大学)と高橋輝昌氏(千葉大学)から、緑の効果について解説が行われました。

また樹木医の鷲山大介氏と安部鉄雄氏によるレジストグラフでの樹木診断の実演と、診断結果の判断に関する解説も行われました。



13:30~15:30 **トークセッション「10年後の東京の緑へのシナリオ 未来に引き継いでいくために」**

話題提供として、高橋輝昌氏(千葉大学)からは「緑の効用と環境」、豊福正巳氏(財団法人東京都公園協会)からは「東京の緑の歴史と資産」、堀江京司氏(久我山連合商店会事務局長)からは「久我山商店会の水と緑の豊かなまちづくりの取り組み」について、お話いただきました。その後、参加者をまじえた官・学・(市)民それぞれの立場での課題について意見交換が行われました。

